

大阪府

(泉州・南河内地区)

赤色ネット、天敵、薬剤を併用した施設ナスの ミナミキイロアザミウマ防除体系の整備

【1. 概要】

- ・忌避効果のある赤色ネット、天敵のダニ、土壌中に存在する菌を原料とした薬剤を併用し、防除の困難なミナミキイロアザミウマの効果的な防除を実施
- ・防除体系マニュアルを作成し、地域生産者に対し講習会を開催

【2. 実践内容】

(1) 取り組みの背景、経緯

- ・ミナミキイロアザミウマは、世代交代が早く防除が困難であり、ナス等の果菜類に大きな被害を与える
- ・薬剤抵抗性が非常に発達しやすく、農薬の散布回数が生産者の負担となっているため、薬剤にたよらない防除体系が望まれている

(2) 普及拡大に向けたポイント、成功要因

- ・下記の点に留意して、防除体系マニュアルを作成し地域に普及
 - ①天敵スワルスキーカブリダニ、微生物を用いた殺虫剤であるメタリジウム粒剤の効果的な時期、処理方法の解明
 - ②農薬登録のある化学合成薬剤(スピロテトラマトフロアブル、エマメクチン安息香酸塩乳剤など)の効果的な使用時期を解明
 - ③天敵への農薬影響評価と、他病害虫も含めた防除体系の整備

【3. IPMの推進による効果、得られた経験】

- ・ミナミキイロアザミウマに対する化学農薬使用量の削減(慣行比40%減)
- ・農薬散布削減による防除作業の省力化(慣行比30%減)
- ・薬剤使用を抑えることができるため、薬剤抵抗性発達の回避
- ・今後、施設キュウリや露地ナスでの応用・新規天敵導入(リモニカスカブリダニ)の可能性を検討

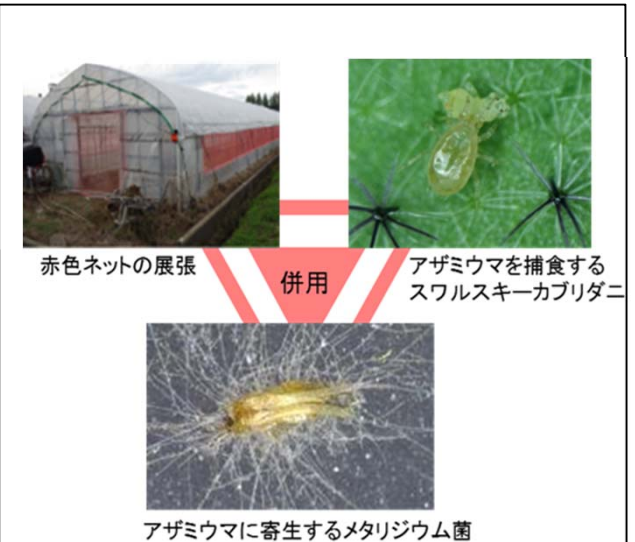


図. 防除に利用する資材・天敵・薬剤

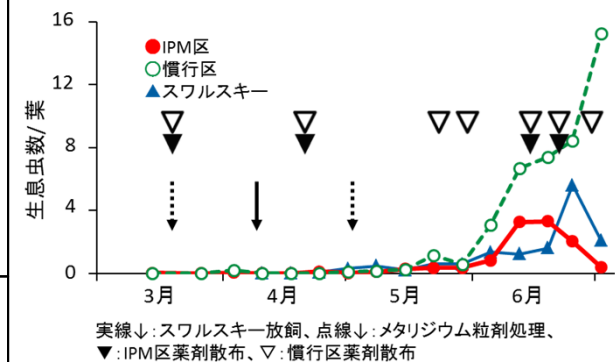


表.IPM実践区での防除効果

【問い合わせ先】
環境農林水産部農政室推進課地産
地消推進グループ
電話：06-6210-9590